

# 屋敷沢堤ハザードマップ

## いざというときは

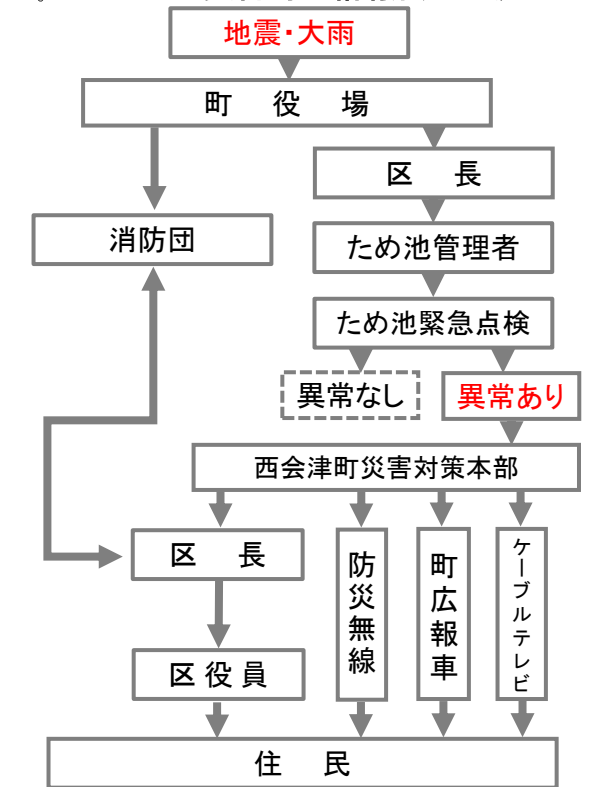
- ・避難は可能な限り浸水が始まる前に。
- ・動きやすい服装で、持ち出し品は最小限に。
- ・必ず徒歩で！足下に注意して避難。
- ・ため池直下（2 m～2.5 mの水深予想）：速やかに避難路を使って高台へ。
- ・ため池直下以外（50 cm未満の浸水予想）：建物の2階などに避難し、水が引いたら旧尾野本小学校に避難。

屋敷沢堤ハザードマップは、万が一決壊した場合の備えとして、浸水の深さやいざという時の心構え、避難所などをハザードマップとして地図上に整理しました。

浸水の特徴を理解して、地域住民が話し合い、ハザードマップを理解することで、いざ防災情報を得た際に正しい判断・行動がとれるようになります。

よく目にするところに貼り、普段から家族や地域みなさんと話し合いましょう。

## 緊急時の屋敷沢堤管理体制 ～災害時の情報伝達の流れ～



指定緊急避難場所  
旧尾野本小学校  
（講堂）



25分後

20分後

15分後

10分後

5分後

3分後

磐越西線

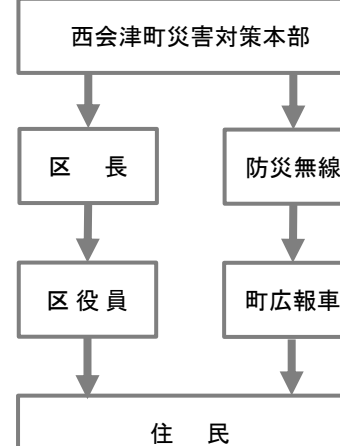
県道16号線

松尾集落


屋敷沢堤

## 災害時の情報伝達の流れ

※災害や避難の情報を伝達します



## 地震のあとの災害シナリオ

時 間	発生前	数秒～1分	1～3分後	5～10分後	約30分後～50分	落ち着くまで
地震情報	緊急地震速報	 発生	地震速報	被害の情報収集		
(TV・ラジオ)	(数秒前)		防災無線			
被 害	<div>松尾集落に水が到達</div>					
○決壊しない場合	<div>緊急放流で水位低下・点検</div>					
※地震直後に決壊しなくても、数日後に決壊することがあるため、監視を継続						
行動の目安	少しでも安全な場所へ移る	いのちを守る	家族を守る 揺れがおさまったら、 高台や安全なところへ 避難	安全な場所へ 避難	避難所などで 待機し、町の 指示を待つ	

## 凡例

最大水深

- 1.0m未満
- 1.0m～2.0m
- 2.0m～3.5m
- 3.5m～5.0m
- 5.0m～7.0m
- 7.0m以上



# 屋敷沢堤ハザードマップの見方・使い方

## ■ハザードマップの作成の目的

屋敷沢堤ハザードマップは、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の浸水範囲となるかを知るために最悪の状況を想定した浸水予測を行いました。

住民のみなさんがハザードマップを通じて、想定される災害を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上につながることを目的としています。

## ■ハザードマップの作成条件

現在起こりうる最大の危機を想定しました。

屋敷沢堤が満水の状態で、貯水量の全量 1.8万トン が下流域に流れ出す場合を想定しました。



## ■そうってからでは遅い！早めの避難

浸水が始まってから行動したのでは、手遅れになる場合があります。あらかじめ、このハザードマップで水がせまりくる状況を学び、万が一の事態が発生した場合の早めの判断、速やかな行動につなげてください。

## ■ハザードマップに載せる情報

### ①場所ごとの浸水する深さ

場所ごとの浸水する深さを色分けして地図上に表示しました。

【浸水深さの目安と色の凡例】

### ②到達時間

ため池の水が到達するまでの時間を表示しました。

### ③指定避難所・指定緊急避難場所

避難する場所を地図上に表示しました。なお、一刻も早い避難が必要な事態になったときは、指定された避難場所によらず、近くの高台へ避難してください。



### ④いざというときの心構え

いざというときの避難に備えて、日常から心がけておく事柄を記載しました。



### 地図を見るうえでのポイント

- 地図の凡例を参考に、どこにどのような浸水が想定されているか確認しましょう（浸水想定区域では、水だけでなく、土砂や流木、地図上にある様々なものが押し流されてくる可能性があります。）
- 災害の状況によっては、避難所へ向かうことが危険な場合があるので注意しましょう。
- 地図の左下にある災害シナリオを参考に、災害の発生から避難完了までを考えてみましょう。
- 地図を片手に自分の家から避難所まで歩き、実際の距離感や、災害時に危険そうな箇所（地震時に崩れそうなブロック塀、大雨時に溺れそうな深みのあるところ）や、逃げ込める高台などをあらかじめ確認しておきましょう。